



わかば

2021. 5. 8
(令和3年) 第21-03号
文責 校長 保谷 力

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新

教育目標 「帰国後、日本の教育に円滑に適応できるよう、日本の学校における学習指導要領に沿った国語、算数(数学)の学力の維持、併せて生活・生徒指導を行う。」

重点目標 一人一人の笑顔輝く学校づくり～期待登校・満足下校～

ポートランド日本人学校の春

校長 保谷 力



2年続きのコロナ禍となりましたが、3月に卒園、卒業式、4月には入園、入学式を迎えるなど、ポートランド日本人学校では教職員が一丸となって新たな教育活動に力を注いでおります。保護者、商工会の皆様には、日頃より学校運営に御理解、御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、コロナ禍では、学校行事が予定通りに進まないだけでなく、教育活動を進める中で様々な問題が生じてきます。その1つに全校児童・生徒の教科書、ドリル等の配布があります。今年も Hillsboro にある Yamato Transport USA 様の倉庫をお借りして、1万冊近くの教科書そして副教材の仕分けを事務局で行いました。従来ですと段ボールに入った教科書を各教室に運び入れ、子供たちに何回かに分けて順番にとらせていきます。その後で担任が一冊ずつ手に取りながら「国語の教科書ありますか?」「算数のドリル?」という具合に、子供たちと一緒に冊数を確認する短時間でできる作業です。ところがコロナで学校が閉鎖されていますので、やむなく事務局の大人5人で、すべての仕分けを行わなければなりません。まず、山のように積まれた段ボール箱を1つずつ開封し、中の教材の冊数に間違いがないかを確認します。国の予算で無償配布される小中学校の教科書は1冊たりとも誤配は許されません。必要冊数にぴったりと合っているかを確認してからの作業となります。出荷する教科書会社も教材会社もその辺はしっかりと理解していますので抜かりはありません。しかし、何度数えても「中学2年生のドリルが5冊足りない。」などと言うことが現実には起こるので、よく見ると中学3年生のドリルの中に紛れていたなどです。今年はコロナ禍における輸送の混乱を受け、教材が一度に到着しませんでした。学校は始まるのに教材は届かず、2度手間、3度手間を繰り返すといった日々が続きました。こうして整えられた数冊の本を1つ1つ束にして袋詰めし、数日後に保護者の皆さんが教科書を受け取りに来るのです。

こうして事務局総動員で関わった目には見えない2日間の作業が無事終了しました。コロナの流行は、こうして学校教育のいたるところを蝕んでいるのです。一日も早くコロナが終息し、ポートランド日本人学校に日常が戻ってくることを私たち事務局スタッフも心から願うばかりです。

